

仙人通信 184 越上山(566m)

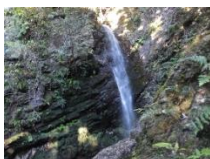
越上山(おがみやま)は、吾野と越生との間に座し、雨水を司る龍蛇神等を祀った御神山からの山名だそうで三等三角点の山である。

越生梅林の先の黒山三滝(天狗滝・雄滝・雌滝)は、室町時代の関東地区の修験道の拠点であり、歴史を感じさせる滝である。無料の駐車場から、瀬に沿ったふれあいの道を10分程進むと対岸100m程に天狗滝が、更に10分程進むと雄滝と雌滝である。この滝壺に入り滝に打たれて修行した僧侶を想像すると、冬だけに身が引き締まる思いだ。ここからは対岸にある崖を登り滝の展望台のあるピークを過ぎ、傘杉峠を目指す沢沿いのコースだ。

越辺川の源流にある黒山三滝(天狗滝・雄滝・雌滝)は、室町時代の関東地区の修験道の拠点であり、歴史を感じさせる滝である。無料の駐車場から、瀬に沿ったふれあいの道を10分程進むと対岸100m程に天狗滝が、更に10分程進むと雄滝と雌滝である。この滝壺に入り滝に打たれて修行した僧侶を想像すると、冬だけに身が引き締まる思いだ。ここからは対岸にある崖を登り滝の展望台のあるピークを過ぎ、傘杉峠を目指す沢沿いのコースだ。ふれあいの道と言う事もあり、危険個所には鉄の階段や敷板が施され、小さな子連れでも登れそうである。しかしこの地区は水源林と言う事もあり杉林である上に両側の崖が迫ってきて日の光も入らず、薄暗い登山道だ。隣を流れる瀬音が聞こえるだけの静寂さである。赤い実を付けたアカネカズラ・シダの他に春を待つスミレの葉があるのみだ。形成する岩は秩父層で赤に白い線状の縞の入った三波石や石灰岩が目立つ。

滝から1時間程登った地点が傘杉峠で、奥武蔵グリーンラインの舗装道路に出る。道路に沿った檜林の尾根道を登り、大平山や役行者像からの道と合流し、道路に出て35分で顔振峠だ。ガンブリ峠と読むそうで、義経主従が奥州落ちの際に風景に見惚れて何度も振り向いた事に由来するらしい。峠の茶屋からは、富士山を中心に右手から両神山・武甲山・伊豆が岳を手前に大菩薩陵が、富士山の肩の左には奥多摩の御岳山等の山々が、更に奥には丹沢山塊等と100°を超す眺望が楽しめた。道路を5分程進んだ先にユカデと諏訪神社を示す道標があり、再度檜林の中のコースだ。幅1m程に整備された登山道は、神社への参道でもある。10分程で石の鳥居のある諏訪神社だ。神社への道路を過ぎて檜林の中のコースを更に進む。梢越しにスカイツリーを示す道標があるも、霞んで確認出来ず。7分程で越上山を示す道標で、急な登りを12分程で三等三角点のある山頂に到着だ。山頂は木々に覆われ展望は“0”に近い。少し尾根を戻った林の中の展望台で休憩をとる。眼下には、先に登ったアンテナが立つ物見山や東京の先には、筑波山も確認できた。先ほどの山頂を示す道標まで戻り、檜林のコースを北向地藏方向に30分で林道の三叉路である。ここからは、昭和41年に作られた笹郷林道を飛騨の合掌造りのある笹郷を経て駐車場に向かう。近くには洪沢平九郎(洪沢栄一の関係者)が官軍に敗れた折に自決した地とした記念碑もある。日本の歴史の縮小版を確認した4時間半(20000歩)の山旅となりました。(h 30.12. 14)

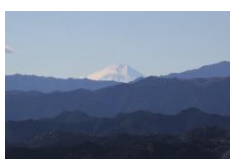
雌滝



杉傘峠



顔振峠の眺望



山頂

